

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671300259
法人名	社会福祉法人 みゆき福祉会
事業所名	グループホーム みずほ
訪問調査日	平成 20 年 2 月 19 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 1 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	671300259
法人名	社会福祉法人 みゆき福祉会
事業所名	グループホーム みずほ
所在地 (電話番号)	山形県上山市牧野字妻神1615 (電 話) 023-677-2122

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年4月1日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	14.7 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設／単独	新築／改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての 階 ～	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	下水道代34円(日額)他実費
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有／無
食材料費	朝食 220 円	昼食 230 円	
	夕食 550 円	おやつ 200 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 85歳、83.7歳	最低 67 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みゆき会病院、 ごとう歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同一運営法人の職員とは、各種委員会活動(苦情解決委員会、個人情報管理委員会、教育・研修委員会、広報委員会、防災管理委員会、安全衛生・褥そう対策委員会、感染症対策委員会、リスクマネジメント・身体拘束しない委員会、食事検討委員会)や法人内研修を通じた活発な交流により、利用者へのサービス向上、人材の育成、職員の資格取得に積極的に取り組んでいます。
また、「花見」「芋煮会」「もちつき大会」などを通じて家族との絆を強くしていくこと、近所の人たちと挨拶を毎日交わしながら、馴染みの関係をつくりあげていくことにも取り組んでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	金銭出納状況の報告が定期的な報告となっていなかった点については、3ヶ月ごとに家族に出納簿を報告するようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に職員全員で取り組み、改善点などを話し合い、今年度は理念の統一にも取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、利用者の生活の様子、外部評価の結果と取り組み状況等を報告している。また、通院時の家族同行などについても会議の議題として取り上げられている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時には気軽に話せる雰囲気をつくるよう心がけており、また、介護計画を家族に送る際には「自由にご意見を」という用紙を同封する取り組みも行われ、「トイレの清掃」などについての意見をホームの運営にも反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭礼、運動会、学校行事などに出かけたり、また、近所の方の参加を得ながら健康教室も開催されている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「なじみのある暮らし 自由な楽しみのある暮らし 安心、ゆとりのある暮らし おいしい食事」というホームの理念はあるが、地域密着型サービスとしての理念が反映されたものとなっていない。	○	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく、地域密着型サービスとしての理念を加えていく取り組みも期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、利用者の視点に合わせて一人ひとりの理念について考え、検討会時に話し合い、経過を記録して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭礼、運動会、学校行事などに出かけたり、また、近所の方の参加を得ながら健康教室も開催されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に職員全員で取り組み、改善点などを話し合い、今年度は理念の統一にも取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、利用者の生活の様子、外部評価の結果と取り組み状況等を報告している。また、通院時の家族同行などについても会議の議題として取り上げられている。		

山形県 グループホームみずほ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからないことは情報をもらったり、聞きに行ったり、あるいは電話で情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りに、暮らしぶり、写真、近況報告、行事報告、職員異動などが掲載されており、金銭出納状況は3ヶ月ごとに出納簿で報告されている。また、通院の報告やアクシデントなどはその都度報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には気軽に話せる雰囲気をつくるよう心がけており、また、介護計画を家族に送る際には「自由にご意見を」という用紙を同封する取り組みも行われ、「トイレの清掃」などについての意見をホームの運営にも反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置異動の場合は、利用者への十分な説明と、他の馴染みの職員で対応するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では、倫理・事業計画・認知症・救命救急・食中毒・摂食嚥下などを行っており、外部研修の後は全体会議で伝達を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会、山形市グループホーム協議会に参加し、交換研修を通して「お茶コーナー設置」「利用者と一緒に作る献立作成」などを取り入れようとしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の料理を作る、漬物、梅干、干し柿の作り方を教えてもらい、ドライブをしながら昔話を聞く、戦争の話を聞くなど、利用者と一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思や意向が聞かれた場合は、生活記録に記入して申し送りを行うようにしている。また、困難な場合は家族より聞き取ったり、話しかけた時のちょっとした反応を見逃さないようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画検討への家族の参加呼びかけ、また、電話や面会時の意向の把握に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の評価と3ヶ月ごとの見直しを行い、体調の変化があれば、医師や看護師とも連携を取りながら介護計画の変更をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	本人、家族の意向を大切にして、ホーム利用前のかかりつけ医との関係を継続できるようにしている。また、協力医療機関の訪問診察を利用した場合は、家族にも報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に関する指針」「看取りに関する事前確認書」等が作成されており、かかりつけ医と連携しながら家族と繰り返し話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライドも考えた言葉づかいや言葉かけに努めており、また、記録はスタッフルームに置いて、他者の目に触れないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間に合わせた朝食時間の変更、パン食希望者への対応、山菜採り・温泉・外食希望の取り入れなど、職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		

山形県 グループホームみずほ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度は、利用者と職員が一緒に行っているが、職員に自己負担金が生じるという理由から、自分で弁当を持ってくる職員もあり、利用者と同じ物を食べていない状況がみられた。	○	認知症高齢者グループホームでのケアの特性を踏まえながら、利用者と職員が同じものを一緒に食べる意義の検討と、実践していくための環境づくりに取り組んでみるのが期待される。また、利用者と職員が同じ食事を食べている他事業所の取り組みについての情報を集めてみることも期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせた、日中と夜間の入浴支援が行われ、入浴までに時間がかかる場合でも、一人ひとりに合わせた誘導によって、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近くの神社への毎朝の参拝、食事の準備と食器拭き、玄関の掃除、足湯、花見、ドライブ、家族と一緒にのバーベキューや芋煮会など、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	神社への参拝、散歩、買い物、生まれた家へのドライブ、玄関先でお茶を飲むなど、事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望や体調に合わせて、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害の理解、利用者一人ひとりの外出傾向の把握と察知、玄関へのセンサー設置ができており、玄関に鍵をかけなくても安全に過ごせるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練は、消防署の指導・協力を得ながら夜間の災害発生を想定した訓練も行われており、また、近所の人、地区の人などで組織された、地域支援団体の協力も得られている。		

山形県 グループホームみずほ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥、きざみ、ソフト食など、利用者に合わせた支援がなされており、また、水分・食事摂取量、味付けの濃さの確認と法人の管理栄養士によるカロリーチェックも行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、コタツを置いた畳の部屋、ソファを置いた廊下、と利用者が好きな所で過ごせるようにしており、季節の装飾や草花を配置して居心地よく過ごせるように工夫している。また、ブラインドやカーテンによって、窓や天窓から差し込む光の調整もなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、テレビ、ソファ、写真など、使い慣れたものが持ち込まれた馴染みの部屋となっており、また、窓のカーテンもプライバシーに配慮して活用されている。		